

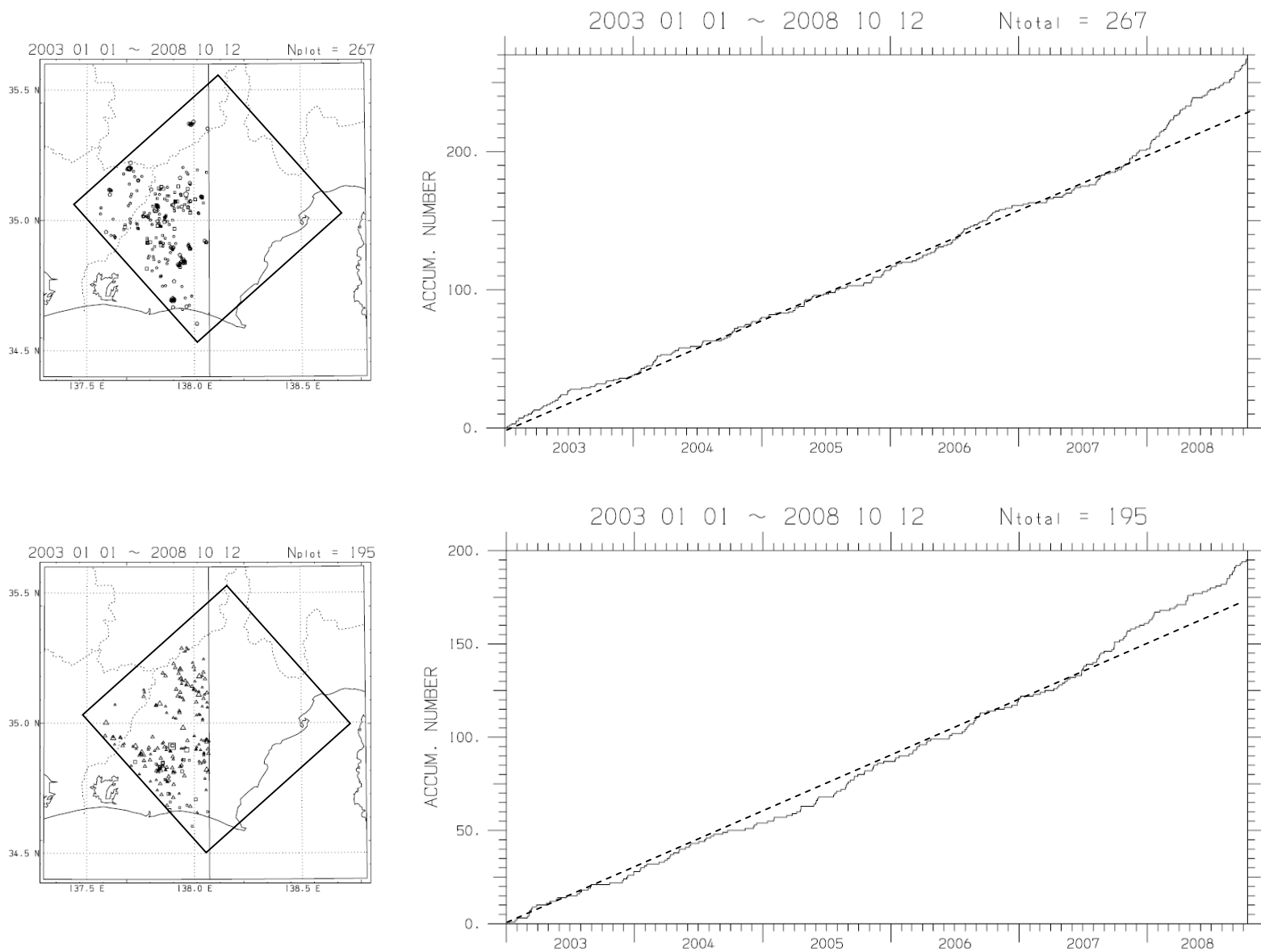
6-3 東海地域推定固着域の西部における 2007 年からの地震活動活性化 Seismic Activation in the Western Region of the Tokai Locked Zone

防災科学技術研究所

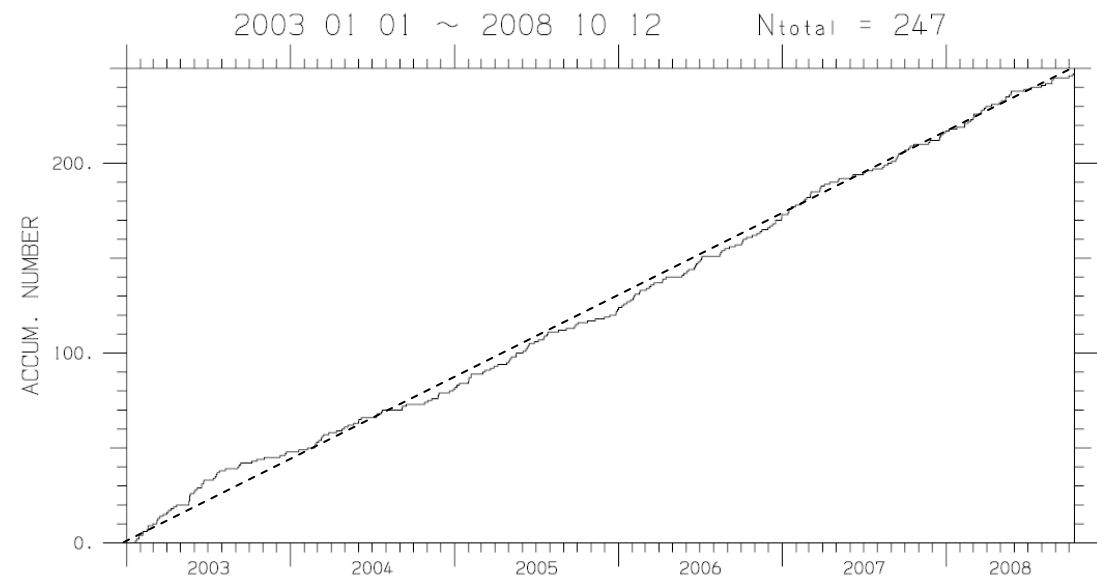
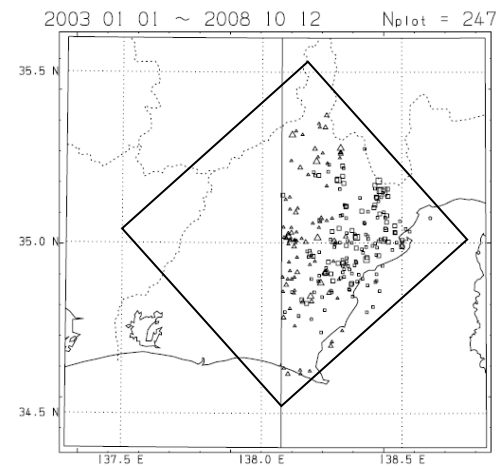
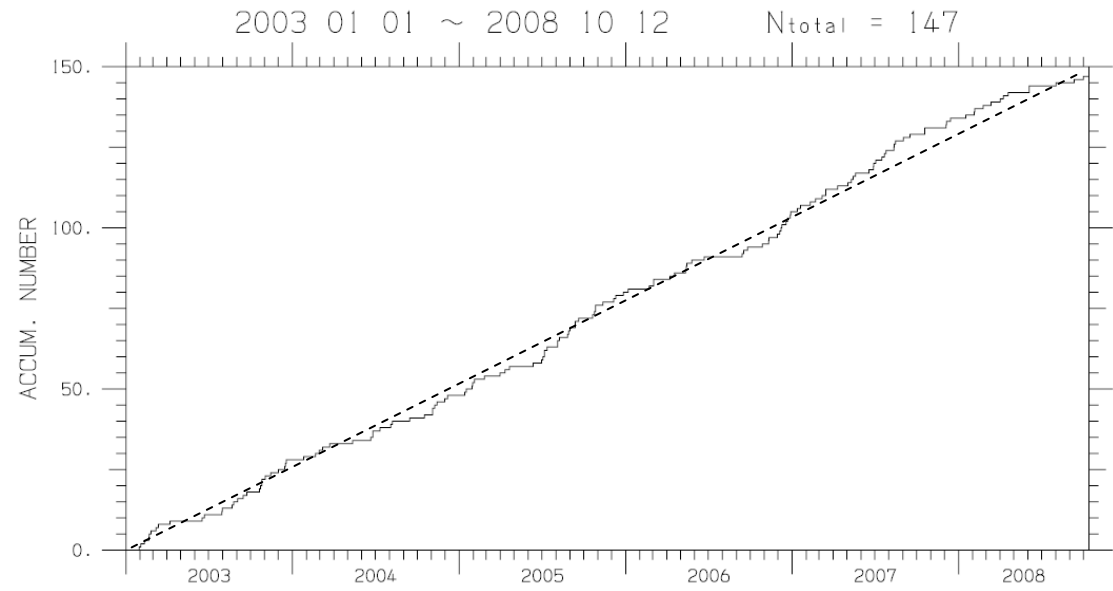
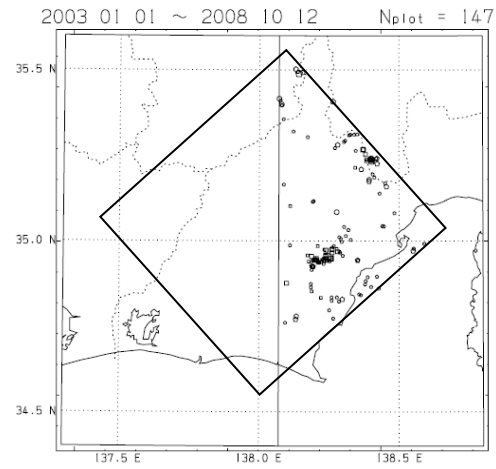
National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention

2005 年後半からのスロースリップ停滞開始に際しては、東海推定固着域内の地震活動に目立った変化は見られなかった。ところが、全体を東西に分割してみると、最近になって興味深い変化が現れた。第 1 図、及び第 2 図は、矩形で囲った推定固着域内上下盤の地震活動に対して、東経 138.07 度線を境にそれぞれ西側と東側に分割した回数積算図である。対象地震は、防災科学技術研究所の Hi-net 地震カタログをベースにして、これに観測点限定したマグニチュード補正をした後、M1.5 以上のものを抽出し、さらにデクラスタリング処理を施している。第 1 図から、西側では 2007 年後半以降、上下盤ともに明瞭な活性化が見られる。一方、第 2 図の東側にはそうした傾向は見られない。スロースリップの停滞から数年遅れて、スロースリップ域の東側縁辺にあたる部分に応力集中が始まり、それは現在も続いているように見える。

(松村正三)



第 1 図 西側の微小地震活動変化. 上図は上盤側 (地殻内), 下図は下盤側 (スラブ内).
 Fig.1 Cumulative frequency of micro-seismicity in the western region of the Tokai locked zone. The top corresponds to the activity in the upper layer beyond the plate boundary (within the crust), and the bottom to the lower layer (within the slab).



第2図 同様に東側の活動変化.
 Fig.2 The similar picture for the eastern region.